

Q&A

消化管出血を契機に発見された十二指腸乳頭部病変

解答：

十二指腸乳頭部カルチノイド

解説：

十二指腸カルチノイドは、消化管カルチノイド全体の18.7%を占め、直腸、胃に次いで多い。十二指腸では球部の頻度が高く、乳頭部は1%以下と少ない¹⁾。粘膜深部～粘膜下層を主座とするため、粘膜下腫瘍の形態をとり、内視鏡的には黄色調で表面に血管拡張や陥凹をともなうのが典型である。十二指腸乳頭部カルチノイドは、閉塞性黄疸や膵炎で発症することが多い²⁾。

本症例では、主乳頭は腫大し、開口部の肛門側に潰瘍性病変を認め、十二指腸乳頭部癌が疑われた。しかし、潰瘍辺縁は整で大部分が粘膜下腫瘍の形態を示しており、十二指腸乳頭部カルチノイド、gastrointestinal stromal tumorなどの可能性が考えられた。超音波内視鏡検査では同部位に13mm大の低エコー腫瘍を認めた。生検はカルチノイドの診断で、幽門輪温存膵頭十二指腸切除術を施行した。切除標本では、主乳頭開口部近傍に黄白色充実性の粘膜下腫瘍を認めた。組織学的には類円形の腫大核と好酸性細胞質からなる腫瘍細胞が胞巣状、索状に増殖していた (Figure 3a, b)。免疫染色では synaptophysin, chromogranin A 陽性であった。MIB-1 陽性細胞は1.2%で、

neuroendocrine tumor, grade 1 (carcinoid tumor) の診断であった。

十二指腸乳頭部カルチノイドの根治的治療法は腫瘍の完全切除であり、膵頭十二指腸切除術が施行されることが多い²⁾。

参考文献：

- 1) 鈴木 力, 曾我 淳: 消化管の神経内分泌腫瘍 (含カルチノイド) 消化管神経内分泌腫瘍の治療. 別冊・医学のあゆみ 消化器疾患 Ver. 3, 712-716: 2006
- 2) Hartel M, Wente MN, Sido R, et al: Carcinoid of the ampulla of Vater. J Gastroenterol Hepatol 20; 676-681: 2005

本論文内容に関連する著者の利益相反

: なし

出題：森 麻紀子 (がん・感染症センター
都立駒込病院消化器内科)
田畑 拓久 (がん・感染症センター
都立駒込病院内視鏡科)
小泉 浩一 (がん・感染症センター
都立駒込病院消化器内科)
神澤 輝実 (" ")

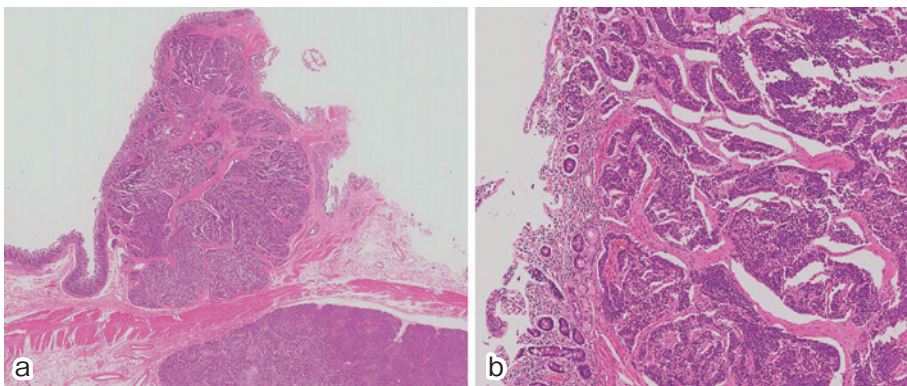


Figure 3. 切除標本 HE 染色.